

I 学校教育目標 共に育つ ～ 考えをみがく 心をみがく 仲間とみがく ～

II 前年度に残された課題	III 本年度の重点課題	IV 来年度に残された課題
<p>○自己有用感を感じられるような取組を充実させ、自己肯定感の向上を図る。 ○指導法をさらに工夫して充実させ、基礎・基本的な内容の確実な定着を図り、児童の自己肯定感を育む。 ○学校と家庭が連携して取組を進め、児童に適切な時間での学習習慣や読書週間を身に付けさせる。 ○授業公開・研究討議を通じて教職員が学び合うことで授業力向上を図り、児童の学力向上へとつなげる。 ○様々な方法で児童同士の意見交流を活性化し、思考力・判断力の育成を図る。 ○特別の教科道徳における「考え議論する道徳」の在り方について研修を深める。 ○コロナ禍における体験的学習の充実を図り、多様性のある豊かな学びを児童に経験させる。 ○教育活動全般を通じて、児童の体力向上を図る。 ○学校運営協議会の設置に伴い、学校と地域の協働の在り方について知見を深める。 ○校内の安全対策や危機管理についての対応を一層高める。</p>	<p>【考えをみがく】 ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導法の工夫に取り組む。 ②他者と交流しながら考えを深める力を着実に育てる。 ③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。 【心をみがく】 ④児童に関する課題を共有し、全職員でルールの徹底とマナーの育成に取り組む。 ⑤自他の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる。 ⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる。 【仲間とみがく】 ⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす。 ⑧集団でのかかわりの場を通して、社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する。 ⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組をすすめる。</p>	<p>○自己有用感を感じられるような取組を充実させて、児童の自己肯定感の向上を図る。 ○指導法をさらに工夫して充実させ、基礎・基本的な内容の確実な定着を図り、児童の自己肯定感を育む。 ○学校と家庭が連携して取組を進め、児童に適切な時間での学習習慣や読書週間を身に付けさせる。 ○授業公開・研究討議を通じて教職員が学び合うことで授業力向上を図り、児童の学力向上へとつなげる。 ○様々な方法で児童同士の意見交流を活性化し、思考力・判断力の育成を図る。 ○カリキュラムマネジメントについて研修を深める。 ○体験的学習の充実を図り、多様性のある豊かな学びを児童に経験させる。 ○教育活動全般を通じて、児童の体力向上を図る。 ○学校と地域の協働の在り方について、さらに知見を深める。 ○校内の安全対策や危機管理についての対応を一層高める。</p>

「1」評価項目 (重点課題番号)	[2]具体的達成目標と評価指標	[3]自己評価		[4]外部アンケートの分析		[5]自己評価		[6]学校関係者評価	
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	中間評価		児童生徒アンケート		最終評価(成果と課題)		課題の改善策等	
		評価日 9月28日	実施日 8/25~8/31 12/6~1/10	実施日 12/10~1/14	評価日 2月13日	評価日 3月3日			
	公表日 5/13 6/30	公表日 3/3 3/22	公表日 10/28 3/3 3/22	公表日 3/3 3/22	公表日 3/3 3/22	公表日 3月22日			
<input type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他				
①	<p>○朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることで、基礎学力の定着を図る。</p> <p>○「自主学習の手引き」により、適切な学習時間を家庭に示して児童や家庭に家庭学習の充実を促し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>・基礎学力の定着を図るために、朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた【肯定的意見89%】</p> <p>・「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた【肯定的意見53%】</p>	<p>・朝の学習や家庭学習をわすれずにすることをがんばった【肯定的意見78%(中間)→79%(年度末)】</p> <p>・適切な時間での家庭学習ができた【肯定的意見64%(中間)→59%(年度末)】</p>	<p>・お子さんは、朝の学習や家庭学習を通じて基礎学力を定着させていますか【肯定的意見73%】</p> <p>・お子さんは、「自主学習の手引き」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか【肯定的意見48%】</p>	<p>・基礎学力の定着を図るために、朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた【肯定的意見89%(中間)→90%(年度末)】 *肯定的意見が90%であり達成できた。教員と保護者の意識に多少の乖離が見られる。</p> <p>・「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた【肯定的意見53%(中間)→71%(年度末)】 *肯定的意見が、中間に比べ、年度末では18ポイント上昇した。教員の評価に比べ、児童、保護者の肯定的意見の割合が低く、次年度に改善が必要であると考え。</p>	<p>・学校だよりや学年だより、ツイッター等を活用して、学習内容等の情報発信を行う。</p> <p>・学校だよりや学年だより等で「自主学習の手引き」の周知徹底を図るとともに、適切な家庭学習時間について啓発の充実を図る。課題内容を精査し、各学年に応じた課題を与えるようにする。</p>			
②	<p>○特別の教科道徳において、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現することで広めるという活動を取り入れることで、「考える道徳」「議論する道徳」の実践を目指す。</p> <p>○学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することで考えを深める力を着実に育てる。</p>	<p>・「考える道徳」「議論する道徳」を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた【肯定的意見84%】</p> <p>・考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた【肯定的意見81%】</p>	<p>・自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた【肯定的意見79%(中間)→78%(年度末)】</p> <p>・学習した内容が、どんな内容だったか分かった【肯定的意見87%(中間)→87%(年度末)】</p>	<p>・お子さんは、学習して分かったことや自分の考えを、ノートやプリントに書いていましたか【肯定的意見51%】</p> <p>・お子さんは、学校での学習内容を概ね理解できていますか【肯定的意見82%】</p>	<p>・「考える道徳」「議論する道徳」を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた【肯定的意見84%(中間)→85%(年度末)】 *中間、年度末ともに高評価であり、教員、児童、保護者の三者にも意識の乖離が見られないため、達成できたと考える。</p> <p>・考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた【肯定的意見81%(中間)→90%(年度末)】 *三者ともに肯定的意見の割合が高く、達成できたと考える。</p>	<p>・児童の活動を学級通信等で情報発信することで学習活動について周知し、理解を得るようにする。</p> <p>・考えを深めるためには、自分の考えをまとめて書くという力を身に付けさせることが大切ではないか。話すだけでなく内容がすぐに流れていってしまい考えが後に残らないが、書くと考えを練り直すことができるので、考えも深まっていくと思う。 ・論理的思考の育成の項目で保護者の評価が低いが、学校でしていることを情報発信して、保護者に理解してもらうことが大切だろう。すでに学校だよりなどで情報発信もなされ、よく分かるようになっている。学校からの発信をどれだけ家庭の方が受け取れるかが課題である。</p>			

③	○学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定する。	A ・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた 【肯定的意見86%】	・自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた 【肯定的意見68%（中間）→70%（年度末）】	・お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言えるようになりましたか 【肯定的意見84%】	A ・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた 【肯定的意見86%（中間）→90%（年度末）】 *児童は若干評価が低めだが、教員、保護者ともに高評価であり、達成したと考える。	・今後も、書くことで考えをまとめ、分かりやすく伝える活動を継続して、考えや思いを伝えるという経験を児童にさせていく。	・考えや思いの表現の評価が低い、子どもたちは学年が上がるにつれ、できないことに焦点化してしまっているのではない。子どもたちの良さを見つけて認め、それを返すことで子どもに自信をつけさせ解決を図ってほしい。
④	○「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させる。 ○児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る。	A ・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させた 【肯定的意見95%】 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた 【肯定的意見91%】	・学校生活のきまりや交通ルール、友だちとの約束を守った 【肯定的意見89%（中間）→88%（年度末）】	・お子さんは、家でのきまりや交通ルール、友達との約束を守ることができていますか 【肯定的意見89%】	B ・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させた 【肯定的意見95%（中間）→100%（年度末）】 *肯定的意見の割合が100%であり、三者ともに高評価のため十分達成できたと考える。 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた 【肯定的意見91%（中間）→64%（年度末）】 *中間と比べ、年度末は27ポイント下降した。特別支援学級担任の情報発信の在り方が課題であり、解決を図りたい。	・生徒指導部を中心に始めた、廊下歩行徹底や挨拶実強化のためのキャンペーン活動を継続させ、児童の規範意識のさらなる向上を図る。 ・特別支援学級担任を中心に児童の情報共有の充実を図り、学校全体で児童の見守りや指導を行う体制整備を継続して行う。	・きまりや約束、規則の順守については、全然、問題ないと思う。見守り活動の場でもきちんとルールが守れている。「気を付けて帰ってね。」と声掛けをすると、「わかりました。」「ありがとうございます。」と、きちんと答えられている。
⑤	○教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導する。 ○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設ける。	A ・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた 【肯定的意見95%】 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた 【肯定的意見82%】	・学校の先生、友だち、近所の人に、丁寧な言葉を使った 【肯定的意見81%（中間）→83%（年度末）】	・お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか 【肯定的意見82%】	A ・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた 【肯定的意見95%→95%（年度末）】 *三者ともに高評価であるので、十分達成できたと考える。 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた 【肯定的意見82%→86%（年度末）】 *肯定的意見の割合が86%であり、達成できたと考える。しかし、児童の自己肯定感の確立のためには、あらゆる場面での働きかけが必要であり、年間を通じて自己成長を確かめる場面設定を行っていききたい。	・教育活動全般を通じて、児童への指導を継続していく。また、教員自身が児童のお手本となるよう、正しく丁寧な言葉遣いをするように、職員会議等で呼びかける。 ・様々な教育活動において、児童の自尊感情の醸成を図ることを意識した働きかけの充実を図っていく。	・丁寧な言葉遣いの項目で、保護者や児童の評価が教員の評価と比べて低いのは、家庭でまで丁寧な言葉遣いはなかなかできないからだろう。だからこそ、学校という集団の場で、相手を思いやる丁寧な言葉遣いをするように指導していくことが大切である。
⑥	○ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への思いやりの心を児童に育む。	A ・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた 【肯定的意見91%】	・ふれあいタイムで、ちがう学年の人と協力することができた 【肯定的意見84%（中間）→88%（年度末）】 ・年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした 【肯定的意見75%（中間）→74%（年度末）】	・お子さんは、違う学年の子とも仲良くしていますか 【肯定的意見86%】 ・お子さんは、年下の子を大事にしようとしていますか 【肯定的意見93%】	A ・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた 【肯定的意見91%→90%（年度末）】 *三者ともに高評価のため達成できたと考える。年下への思いやりの項目については、児童の評価が若干低めである。たてわり活動のみならず、人権教育や道徳教育、学級活動等あらゆる場面を捉えて、児童に思いやりの心を涵養していききたい。	・他者、特に立場の弱い者への共感を、たてわり活動の継続も含め、人権教育や道徳教育など、全ての教育活動を通じて児童に涵養していく。	・年下への思いやりの項目で児童が低評価であったのは、コロナ禍で行事が少なく異学年での交流の機会が少なかったことも要因の一つだろう。集団活動が回復されれば、評価も上がるのではない。この項目で中学年が低評価なのは、中学年が上級生と下級生の両方の立場であるということも関係しているのではない。この学年の児童にアプローチすることが大切だろう。 ・思いやりの心を理解させるだけでなく、それを行動に移せるところまで全教育活動を通じて児童に育んでほしい。

⑦	<p>○自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させる。</p> <p>○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てる。</p>	B	<p>・自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた【肯定的意見74%】</p> <p>・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた【肯定的意見86%】</p>	<p>・学級会で、よく考えて自分の意見を言った【肯定的意見65%(中間)→61%(年度末)】</p> <p>・ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた【肯定的意見83%(中間)→82%(年度末)】</p>		B	<p>・自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた【肯定的意見74%→79%(年度末)】 *肯定的意見が教員は79%、児童、保護者も6割であり、概ね達成できたと考える。しかし、年度末の児童の肯定的意見は61%にとどまり、今後、継続して取り組んでいかなければならないと考える。</p> <p>・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた【肯定的意見86%→90%(年度末)】 *三者ともに高評価であり、達成できたと考える。</p> <p>・特活部からの書く活動の提案時に、活動内容についての提案だけでなく、活動を通じて児童に協働的な課題解決の力を育成するという視点も含めて提案するようにする。</p>	<p>・話し合いの活性化を図るためには、学級会でみんなが発言できるように司会グループを交代させて偏った者だけが発言することの無いようにしていくことが大切だと思う。スピーチ活動を取り入れていくのもよいのではないかと。</p> <p>・話し合う際には、すぐに解決できないような社会の問題を自由に議論させることも必要ではないかと。</p>
⑧	<p>○ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるようにする。</p> <p>○委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるようにする。</p>	A	<p>・ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた【肯定的意見86%】</p> <p>・委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた【肯定的意見91%】</p>	<p>・気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った【肯定的意見91%(中間)→79%(年度末)】</p> <p>・お子さんは、委員会活動を通じて、自分が人の役に立っていることを認識していますか【肯定的意見93%】</p>		A	<p>・ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるようになった【肯定的意見86%→86%(年度末)】 *中間、年度末共に肯定的意見の割合が86%であり、達成できたと考える。</p> <p>・委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた【肯定的意見91%→95%(年度末)】 *三者ともに肯定的意見の割合が高く、十分達成できたと考える。</p> <p>・次年度も、ふれあいタイムで、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援のあり方を特活部が提案し、各々の教員は毎回の活動において自身の支援のあり方が適切であったか振り返るようにする。</p> <p>・今年度同様に、全校体制で各委員会への感謝の気持ちを手紙に書いて掲示し、児童に自己有用感を獲得させる。また、各委員会から活動の紹介を行い、全校児童が委員会活動についての認識を深めることで、高学年児童への感謝の気持ちを持てるように支援する。</p>	<p>・集団への奉仕を通じての自己有用感の項目で児童の評価がそれほど高くない。児童は責任感を持って委員会活動を行っているが、その活動に喜びを感じられていないから評価も高くないのではないかと。そこに喜びを感じさせ、満足感を持たせることができれば、児童も自己有用感を感じるができると思う。</p> <p>・児童は、自分の行っている活動のどの部分が良かったのか、役立っているのか気がついていないのだろう。具体的な言葉でそれを伝えることで児童に気付かせ、自己有用感を味わわせてやるのが大切だと思う。伝える際には、児童に関わっている者が児童に届くように伝えることが重要で、どの部分がどう良かったのかを的確に伝えてほしい。</p> <p>・児童の自己有用感を育むためには、保護者や周囲の大人が児童の良さを児童に伝えてやるのが大切だが、保護者も忙しくて気が付けないことが多いから、学校から保護者に児童の良さを伝えてほしい。そうすることで、保護者も児童により働きかけをする事ができるのではないかと。</p> <p>・委員会活動について広報することで児童に満足感を持たせたり、他の児童らから感謝されたりする場面を創造することで自己有用感を育み、自己肯定感の獲得へと繋げていってほしい。</p> <p>・委員会活動を通じて児童に自己有用感を持たせるという方向性でよいと思うが、内容の改善を図ることは必要だろう。また、学校から家庭に情報発信を行い、協力を得ることも大切だと思う。</p>

⑨	<p>○体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。</p> <p>○たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図る。</p> <p>○外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行う。</p>	B	<p>・体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見89%】</p> <p>・たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見62%】</p> <p>・外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた【肯定的意見50%】</p>	<p>・体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した【肯定的意見91%(中間)→91%(年度末)】</p> <p>・ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした【肯定的意見90%(中間)→89%(年度末)】</p> <p>・休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした【肯定的意見74%(中間)→61%(年度末)】</p>	<p>・お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか【肯定的意見75%】</p>	B <p>・体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見89%→95%(年度末)】 *中間期と比べ6ポイント上昇し、児童も高評価であるため十分達成できたと考ええる。</p> <p>・たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた【肯定的意見62%→76%(年度末)】 *中間期と比べ14ポイント上昇し、概ね達成できたと考ええる。教員と児童に意識の乖離が見られるが、教員はたてわり活動だけで体力向上が図られていると考えていないからではないかと考える。</p> <p>・外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた【肯定的意見50%→60%(年度末)】 *三者ともに肯定的意見の割合が6割を超えており、概ね達成できたと考ええる。しかし、教員、児童共に昨年度に比べ評価が大幅に下降しており、注意が必要である。体力向上の観点から、改善を図っていかなければならないと考える。</p>	<p>・体育部から体力向上ステップアップシートを示し、本校の体力向上の取組について共通理解を図る。</p> <p>・運動場での班遊びを決める際に、体を動かして遊べる遊びの紹介をしていく。</p> <p>・体育部より体力向上のための遊びの紹介を行い、各学級で外遊びが推進されるよう働きかける。</p>	<p>・外遊びの習慣化に学級遊びは有効であると思う。学級のみんなで誘い合うような体系を創っていくとよいのではないかと考える。</p>
---	---	---	--	---	---	---	---	--